

『ドングリを跳ねて飛ばしたい』 5歳児 10月 伏見こども園

エピソード

Aちゃんが一斗缶や板を組み合わせてドングリ転がしのコースをつくり始めました。今までの経験からドングリの転がる軌道を予想しながらコースを組んでいく中で「ドングリを跳ねて飛ばしたい」という思いが出てきました。ミルク缶を置いてみましたが思ったように飛びません。近くにあった苗帽子を持ってきて、苗帽子の穴を通して飛ばそうと考えますが、ドングリは苗帽子の中をコロコロと周り、穴を通ることができません。「穴が板に近い方がいいのかな」「穴が小さいからかな」と、なぜ予測通りにならないかを考えながら、どうすればうまくいくか繰り返し試していました。「テープ貼るから、ここ持っという」「ハサミで穴を大きくしてあげるよ」と友達と考えを伝え合い、苗帽子の穴を大きくしたり、「穴と板が近いほうがいいかも」と、苗帽子の下に板をはめてみたりし、コースをつくっていました。「何してるの?」とコースを見に来た友達が「ここをもっと斜めにしたら」と一言言うと、それを聞いたAちゃんが試してみる姿もありました。ドングリはAちゃんが思ったように転がったり跳ねたりしませんでした、思いの実現に向けていろいろな方法を考え、繰り返し試していました。

子どもの育ちや学び

ここまでドングリを跳ねて飛ばしたいな

①



思い通りにならなかったり、うまくいかなかったりしても、**今までの経験から次の考えがすぐに出てきて試す**

②



苗帽子で止まっちゃう

「ドングリを跳ねて飛ばしたい」という強い思いをもち、**実現したいと繰り返しやってみる**

穴が小さいからかな？
穴を切って大きくしてみよう

③



友達と考えや思いを伝え合い、一緒にやってみる

つまずきがあっても、それを**次に活かそうとする**

④



苗帽子の穴と板を近づけたらいいかもしれない

諦めない心
継続力・持続力

保育者の思い

・「ドングリを跳ねて飛ばしたい」という思いの実現に向けてAちゃんが考える姿に寄り添いながら、今までの経験を思い出せるようにしたり、身近にある用具に目を向けられるように一緒に考えたりしました。
・Aちゃんの思い通りにドングリが転がらなかったときに「うまくいかなかった」ではなく、「今はこんな風に転がったね」「さっきとここが違うね」と、次に考えるきっかけとなるような声掛けを意識しました。

家庭だったら

・遊びの中で、諦めずに、つまずきを次に活かそうとする力が育ってきています。つまずきを感じた時は「次はどうする?」と、いろいろな方法を一緒に楽しんで考えてみてください。子ども達の柔軟な発想に気付かされると思います♪